

# 長崎の 密かな 信仰の証。

17世紀から2世紀を越えて続いた  
キリスト教禁教による宣教師不在の中  
潜伏キリシタンは  
仏教や神道などの在来宗教や  
一般社会と関わりながら  
信仰を続けました。  
これらの資産は  
類稀な歴史を物語る  
貴重なものです。  
過去から現在、そして未来に  
引き継がれていくべき大切な遺産  
「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」は、  
2018年に世界文化遺産に  
登録されました。

写真●野崎島の集落跡/外海地域の潜伏キリシタンは、神道の聖地であった野崎島に開拓移住し、在来宗教と折り合いをつけながら自分たち自身で組織的に信仰を続けました



## 1

### 宣教師不在と キリシタン「潜伏」のきっかけ

1549(天文18)年、キリスト教がフランシスコ・ザビエルによって日本に伝えられ、その後宣教師たちの活動や南蛮貿易の利益を求めて改宗したキリシタン大名の保護によって全国に広まりました。しかし、豊臣秀吉のバテレン追放令に続く江戸幕府の禁教令により、すべての教会堂は破壊され、宣教師は国外へ追放。1637(寛永14)年、禁教が深まる中、圧政をきっかけにキリシタンが蜂起して「原城跡」に立てこもりました。この「島原・天草一揆」に衝撃を受けた幕府は、宣教師の潜入の可能性のあるポルトガル船を追放し、海禁体制(鎖国)を確立しました。1644(天保元)年には最後の宣教師が殉教。残されたキリシタンは、民衆レベルの信仰の共同体を維持しながら「潜伏」して信仰を続けました。



写真上●聖フランシスコ・ザビエル像(神戸市立博物館蔵)  
写真下●原城跡(南島原市)/幕府軍12万人に包囲された原城は徹底的に破壊されました。発掘調査では無数の人骨とともに十字架やメダイなどが出土しています

## 2

### 潜伏キリシタンが 信仰を実践するための試み

日本各地の潜伏キリシタン集落は途絶えていきましたが、キリスト教の伝来期に最も集中的に宣教が行われた長崎と天草地方においては、18世紀以降も共同体がひそかに維持され、独自に信仰を実践する方法を模索していきました。それは、山や島(「平戸の聖地と集落」)、生活・生業に根ざした身近なもの(「天草の崎津集落」)、聖画像(「外海の出津集落」)、神社(「外海の大野集落」)など、それぞれの集落で独自の対象をひそかに拝むというものでした。

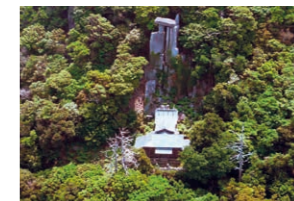


写真上●春日集落と安満岳、中江ノ島(平戸市)/禁教期の春日集落の潜伏キリシタンは、禁教初期にキリシタンの処刑が行われた中江ノ島(写真左端の島)を殉教地として拝み、聖水を汲む場としながら、キリスト教が伝わる以前から山岳仏教信仰の対象であった安満岳(写真右上の山)を拝みました(©日暮雄一)  
写真下●大野神社/古来の神社に潜伏キリシタンは密かに自分たちの信仰対象を重ねました(©池田勉)

## 3

### 潜伏キリシタンが 共同体を維持するための試み

18世紀の終わりになると、外海地域の人口が増加し、五島列島などへ開拓移住が行われました。開拓移住者の中には潜伏キリシタンが多く含まれており、彼らは自分たちの共同体を維持するために、藩の再開発地(「黒島の集落」)や神道の聖地(「野崎島の集落跡」)、病人の療養地(「頭ヶ島の集落」)、未開発地(「久賀島の集落」)、仏教集落から離れた谷間(「奈留島の江上集落」)など、既存の社会や宗教との折り合いのつけ方を考慮して移住先を選択しました。このように潜伏キリシタンは、信仰を実践するために拝んだ独自の対象や共同体を維持するための移住先の選地により、2世紀にわたって信仰を続けてきました。



写真上●沖ノ神嶋神社(小値賀町)/野崎島の北部に立地する沖ノ神嶋神社は海上交通の守り神として広く崇敬を集めていました。この島は神道の霊地として一般の人々が生活を営むことのできない島でした  
写真下●頭ヶ島(新上五島町)/潜伏キリシタンは病人の療養地とされていたこの島に移住し、仏教徒の開拓指導者のもとでカモフラージュしつつ、信仰を維持しました

## 4

### 宣教師との接触による転機と 「潜伏」の終わり

1854(安政元)年の開国後、長崎にきた宣教師たちは、「大浦天主堂」を建設し、居留地の西洋人のために宣教活動を行いました。1865(元治元)年、大浦天主堂の宣教師と浦上村の潜伏キリシタンが出会った「信徒発見」をきっかけに、多くの潜伏キリシタンが信仰を表明したため、再び弾圧が強化され摘発事件が相次ぎましたが、西洋諸国の強い抗議等を受け、1873(明治6)年、明治政府は禁教の高札を取り除き、キリスト教は解禁されました。潜伏キリシタンは、宣教師の指導下に入ってカトリックへ復帰する者、引き続き自分たちの信仰形態にとどまる者、神道や仏教へと改宗する者へとそれぞれ分かれました。カトリックに復帰した集落に建てられた教会堂は、「潜伏」が終わりを迎えたことを象徴的に表しています。



写真上●「信徒発見」のレリーフ/大浦天主堂の敷地内にあるレリーフには、プティジャン神父と浦上村の潜伏キリシタンの出会いが刻まれています  
写真下●江上天主堂(五島市)/禁教が解かれた後に建てられ、移住先の風土に適した在来の技術のあり方を示しています

The History of Nagasaki ③

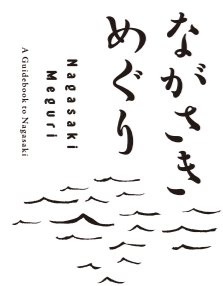
# A Place of Prayer



# Hidden Christian Sites in the Nagasaki Region



●奇跡の瞬間を見守った大浦天主堂のマリア像。浦上の潜伏キリシタンは250年もの潜伏ののち、この場所で信仰を告白したのです



長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産「十二の構成資産」



1. 原城跡 [南島原市]



2. 平戸の聖地と集落(春日集落と安満岳) [平戸市]



3. 平戸の聖地と集落(中江ノ島) [平戸市]



4. 天草の崎津集落 [熊本県天草市]



5. 外海の出津集落 [長崎市]



6. 外海の大野集落 [長崎市]



7. 黒島の集落 [佐世保市]



8. 野崎島の集落跡 [小値賀町]



9. 頭ヶ島の集落 [新上五島町]



10. 久賀島の集落 [五島市]



12. 大浦天主堂 [長崎市]

●1865(元治2)年建堂、フランス人宣教師ブチジャンらの指揮のもと、外国人居留地に建てられた大浦天主堂。1953(昭和28)年に国宝に指定された、日本に現存する最古の教会堂です